

令和4年度（茅ヶ崎高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
(1) -① 法令遵守意識の向上	○教育公務員としての自覚と責任をしっかりと意識し、不祥事防止に努める。	・資料等を活用し、事例と処分内容を全体に周知し、教育公務員としての自覚と責任の意識の高揚を図った。 ・面談等をとおして、経験の浅い教職員の意識啓発を適切に行った。
(1) -② 職場のハラスメント（パワハラ・セクハラ・マタハラ等）の防止	○パワハラ、セクハラ、マタハラ等のない職場をつくる。 ○人権に配慮し、他人を尊重した職場をつくる。	・職員啓発資料等を活用し、ハラスメントに対して全職員が共通認識を持ち、不祥事を未然に防止するよう働きかけた。 ・新聞報道等をもとに、朝の打合せや職員会議の場で注意喚起を行うことで不祥事防止に努めた。
(1) -③ 児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	○生徒に対するセクハラ等を未然に防ぐ。 ○生徒にとって安心・安全な学校を実現する。	・生徒指導や教育相談については、時・場所・対応方法・言動等に十分配慮して実施するよう繰り返し周知した。 ・「生徒相談窓口」を充実させ、生徒が相談しやすい体制の構築を図った。
(1) -④ 体罰、不適切な指導の防止	○生徒の基本的人権を尊重し、体罰や不適切指導のない学校を実現する。	・職員啓発資料等を活用し、日常起こりうる状況を見つめ直すよう働きかけ、注意を喚起することで事故防止に努めた。 ・人権に配慮した対応について研修会を実施し、意識向上を図った。
(1) -⑤ 成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る不祥事防止	○一人ひとりの責任を明確化して業務にあたり、不祥事防止に努める。	・複数人によるチェック体制を徹底し、当事者意識を持って業務に取り組むよう働きかけ、事故防止に努めた。 ・作業手順の順守を再確認し、点検作業等が形骸化しないように一人ひとりの分担を明確にして業務に取り組んだ。
(1) -⑥ 個人情報等の管理・情報セキュリティ対策	○個人情報管理に係る意識を高め、個人情報の流出を未然に防ぐ。	・情報セキュリティの点検や情報管理規定の確認を行い、個人情報流出の未然防止に努めた。 ・個人情報の学校外への持ち出しの際の「個人情報持ち出し許可」や文書廃棄の際の適切な申請等、適切な手続履行を徹底した。
(1) -⑦ 交通不祥事防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	○規範意識を高め、公務員としての自覚と責任を持ち、不祥事防止に努める。	・常日頃より交通事故について全職員に注意を喚起し、交通事故防止意識を高めた。 ・飲酒、酒気帯び運転防止について職員啓発資料等を活用し、酒を伴う会等には、車（自転車を含む）での参加をとりやめることを強く呼びかけた。
(1) -⑧ 業務執行体制の確保等	○報告・連絡・相談体制を徹底し、気にかかることを互いに話せる風通しのよい職場づくりを構築する。	・職場環境づくりについて、職員からの意見を求め、職場環境の改善・充実を図った。 ・日頃より、チェック体制の充実を図り、相互に協力してミスの発見に努め、未然に事故を防止する意識の高揚を図った。

(1) - ⑨ 会計事務等の適正執行	○適正に会計処理を行い、不祥事の発生を未然に防止する。 ○部活動費の適正処理管理の徹底を図る。	・私費執行手順を確認し、周知徹底を行った。 ・私費の用途の適正化を確認し、通帳・出納簿の適切な記入と保管を徹底した。 ・各部活動顧問に対して部活動費執行に関する規定を周知・確認し、定期的な会計処理・管理の徹底を図った。
(1) - ⑩ 入学者選抜に係る不祥事防止	○公表された内容に沿った選考を忠実にを行い、採点、集計選抜資料等慎重なチェックを重ね、不祥事防止につなげる。	・概ね目標は達成できたが、引き続き点検・検証を行い、事故防止を徹底する。
(2) - ① 外部・保護者等への親切で適切な対応	○誠実で思いやりのある適切な対応により県民の信頼を得られる行動をとる。 ○社会構造・家庭環境の複雑化、学校を取巻く環境変化の中で、保護者との連携を一層深める。	・外部からの訪問者に対して丁寧で誠実な対応を心掛けるとともに、電話対応においては必ず名前を名乗り、迅速で誠実な対応を心がけるよう、繰り返し呼びかけた。 ・保護者と連携を密にして、子どもが抱える課題について早期対応・問題解決を図った
(2) - ② 保存文書等の管理の徹底	○保存文書の管理を徹底し紛失を防止する。	・本館の引越の際に事故が起こらないよう、文書等の保存すべき期間の確認や、保存すべき文書の保存指定場所の確認を行った。 ・保存期間経過文書を確認し、廃棄処理を行った。
(2) - ③ 部活動における不祥事防止	○生徒の健康チェックや設備用具の点検を行い、不祥事を未然に防ぐ。	・新型コロナウイルス感染症の対策等に問題があった。部活動中の怪我についても、完全に防ぐことはできなかった。 ・トレーニングルームの危機の老朽化により不備があったので、機器の修理を行った。

○ 令和4年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和5年度に取り組むべき課題
(学校長意見)

令和4年度は、入選業務をはじめ、大きな事故もなく、全体としては不祥事の未然防止に努めることができた。しかし、生徒の出席状況の確認などにおいて課題があり、今後も丁寧に点検を行い、ミスを防ぐ必要がある。さらに、生徒の登下校時の事故や、部活動中の怪我などがなかなか減少しないことを鑑み、生徒が安全で安心な学校生活を送れるよう、登下校や部活動時の指導について見直し、事故防止に努めるとともに、職員の安全に対する意識を高める。